

信玄の野望



信長を中心とした動き



信玄の動き

1560
(永禄3)

信長、桶狭間の戦いに勝利

信玄、今川氏との同盟を維持

1565 45歳
(永禄8)

信玄暗殺計画
(by 今川寄りの武将たち)

信玄、武田義信を嫡男から外す

武田勝頼(20歳)、
信長の養女と結婚

信玄、武田勝頼を
後継者に

信玄、信長と同盟

1567 47歳
(永禄10)

信長、稲葉山の戦いに勝利

武田義信の死(享年30)

信玄の娘(7歳)、
織田信忠(11歳)に嫁ぐ

信玄と信長の同盟強化

1568 48歳
(永禄11)

信長、上洛

信玄、駿河侵攻
(with 徳川家康)

今川氏真、駿河より退却

北条氏政、武田信玄との
同盟破棄

信玄、駿府に入る



信長を中心とした動き



信玄の動き

1569 49歳
(永禄12)

今川氏真、北条氏政の嫡男
に駿河を譲ると約束

北条氏政、子を上杉謙信の
養子に(→ 越相同盟)

信玄、上杉謙信と和睦

信玄、佐竹氏・築田氏と同盟
常陸 下総

信玄、小田原城に
進軍

1571 51歳
(元亀2)

徳川家康、浜松城に移る
(信玄と対抗する姿勢)

信玄、遠江に侵攻
信玄、三河に侵攻

信玄、吐血
甲斐に帰還

信長、比叡山の焼き打ち

信玄、信長を批判

天台座主、
甲斐に亡命

北条氏康(氏政の父)死去

「信玄と和睦せよ」
と遺言

信玄、北条氏政と
和睦
(→ 甲相同盟)

武田信玄の30代と40代前半は、川中島の戦い（1553～1564年）に終始することとなります。

その間、信長は、1560（永禄3）年の桶狭間の戦いで今川義元を破って、破竹の勢いで天下布武に向けて邁進していきます。

そうして、信長は美濃とのつながりを深めていきました。美濃国は武田氏の領国である信濃国と国境を接しており、武田信玄に「織田信長」の影が否応なしに迫ってくるのです。

❖ 1565（永禄8）年 【信玄45歳】

10月、信玄は突然、武田義信を嫡男から外します。理由は、「武田義信が、信玄暗殺計画に加わった」というものでした。

桶狭間の戦いで、今川義元が倒されたあとも、信玄は「今川氏との同盟関係を維持する」という姿勢を崩しませんでした。しかし、一方で、信長の勢いは日増しに強くなっていきます。

——信長と真っ向から対立することは得策ではない。

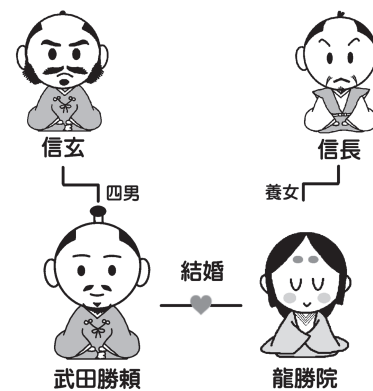
——今川との同盟関係を維持するよりも、信長と組んで駿河を攻めるほうが得策だ。

と判断します。もちろん、この信玄の動きに今川寄りの武将たちは反発、

「かくなるうへは、信玄公を暗殺して、嫡男である義信さまを中心に今川との同盟関係を堅持すべきだ」

と考えるようになります。この「信玄暗殺計画」は、密告により露呈します。信玄は、武田氏内部の規律が乱れないようにと、武田義信を含む今川寄りの家臣たちを一斉に粛清しました。武田義信は甲府の東光寺に幽閉されてしまいます。

翌11月、信玄の四男である武田勝頼と信長の養女・龍勝院との婚姻が進められます。信玄の次男の竜芳^{りゅうほう}は、生まれつき盲目であったため出家し、三男の信之も11歳で亡くなっていたため、信玄は、武田勝頼を後継者に指名しました。このとき、武田勝頼20歳。



「武田氏の後継者が信長の養女と結婚した」——この婚姻は、武田氏と信長のあいだに同盟関係が結ばれたことを意味したのです。

❖ 1567（永禄10）年 【信玄47歳】

【9月】

稲葉山城の戦いで斎藤龍興を破った信長は、一気に京へと上っていくわけですが、同時に考えます。

——武田氏との関係をないがしろにはいけない。

これは信玄においても同じでした。

【10月】

この頃、信玄の嫡男の地位を廃され、東光寺に幽閉されていた武田義信が、30歳の若さで亡くなってしまいます。武田義信の死については、暗殺されたという史料はありませんが、稲葉山城の戦いの翌月というあまりのタイミングにミステリーを感じずにはいられません。

【12月】

信玄の六女・松姫^{まつひめ}と信長の嫡男である織田信忠^{のぶただ}の婚約が成立します。武田氏と織田氏の同盟強化のためです。